

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒も教職員も生き生きと学び続ける学校

1. 全ての生徒が進路希望を実現するために学力の向上を図るとともに、将来を見据えた進路選択を促し、キャリア形成を支援する
2. 授業、学校行事・部活動、探究学習等のすべての教育活動を通じて、たくましく、しなやかにグローバル社会を生き抜く力を育む
3. 英語・第二外国語の習得や多文化理解教育を通して、多様性を認め、世界の課題に対して当事者意識を持ち、多文化共生を推進する人材を育てる

2 中期的目標

1. すべての生徒の進路希望実現とキャリア形成支援

(1) 新学習指導要領を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実践による学力の向上

- ア 授業アンケートの結果を踏まえた改善を進め、互見授業・公開授業・研究授業等を通じて組織的な授業力向上の取組みを行う
- イ 学力生活実態調査(国数英)等を活用し、授業と自学自習により、1・2年次において基礎学力の定着をはかる
- ウ 自学自習の習慣を確立する 小テスト・朝学・補習・講習・基礎学力調査・模擬試験、動画学習等様々なアプローチをする

(2) キャリア形成の段階的支援(社会に開かれた教育課程の実践)

- ア 進路指導部を中心に、進路指導戦略を明確にし、その共有のもとに効果的な進路指導を行う
- イ 「総合的な探究の時間」を進路探究とし、社会や世界の課題に目を向け、SDGsと関連づけ地球の一員として当事者意識を持って考え、自分の可能性を探るなかで、将来を見据えた進路選択を促し、自分のキャリアをデザインする力を育む
- ウ 探究的な活動を通じて、視野を広げ、未知なるものに果敢に挑戦し、意見の交換・調整を通して仲間とともに課題を解決する力をつけ、自尊感情を高め、予測不能な21世紀社会を生き抜く力を育む

(3) 社会性の育成と学習環境の整備

- ア TPOに応じた行動ができる生徒を育成する
- イ 様々な教育活動を通じて、自他の人権を尊重する態度を養う
- ウ 校内美化を推進し、落ち着いて学習に取り組むための清潔、快適な学習環境を保つ
- エ 施設の改善や教科指導に活かせるよう、限られた予算を効率よく使い、節減に努める

令和4年度までに「学校教育自己診断」の生徒の肯定率「自学自習の習慣」50%台に(H29:50%,H30:49%,R1:47%)、「進路意識の確立」80%台(H29:78%,H30:70%,R1:77%)、「人権を尊重する学び」の肯定率90%台に(H29:78%,H30:83%,R1:89%)とする。また、現役での四年制大学進学75%(H29:69%,H30:69%)をめざし、さらに、探究的な学習を継続的に行い、「探究学習に積極的に取り組んでいる」【新設】80%以上とする。

2. 多文化共生を推進する人材の育成(国際教養科の再編に向けて)

(1) 多文化理解教育の一層の充実

- ア 留学生や姉妹校との交流の推進、多文化社会との交流、フィールドワークやボランティア活動への積極的参加等を通して多文化共生について深く考え、課題の解決に協働して向かう姿勢を養う

(2) 両学科ともに英語四技能を総合的に伸ばす英語教育の充実を図る

- ア 四技能を総合的に伸ばす指導方法を研究するとともに、ネイティブ英語教員を最大限に活かせる英語教育体制を構築する
- イ GTEC4技能でCEFR-JのA2.2以上をめざさせるとともに、TOEIC受検等資格取得に挑戦させる
- ウ 国際理解教育を推進し、生徒の視野を広げ、海外語学研修や留学に挑戦させる

令和4年度までに、「学校教育自己診断」の生徒の肯定率「英語教育・国際理解教育の充実」95%以上(H29:94%,H30:95%,R1:94%)また、GTECの技能で、CEFR-JのA2.2以上30%(R1:25.1%)をめざす。

3. 地域との連携や社会との繋がりによる人間力の育成

(1) 自主的な活動の活性化

- ア 学校行事や部活動を通じて、コミュニケーション力、調整力を養い、良好な人間関係を構築する力を育む

(2) 生徒会活動の充実

- ア 学校行事の活性化を通じて、生徒の自尊感情を高めるとともに、自主・自立の力を育む
- イ ボランティア活動や国際交流、地域との交流を通じて社会との関わりの中で成長させる

令和4年度までに、「学校教育自己診断」の生徒肯定率で、「生徒会活動に積極的に参加」を85%以上に(H29:84%,H30:85%,R1:83%)、「部活動が活発」を90%台維持(H29:90%,H30:90%,R1:91%) 「友好的な人間関係の構築」90%台維持(H29:92%,H30:94%,R1:95%)を目標とする。

4. 学校力の向上

(1) 組織で課題に取り組む体制づくり

- ア 運営委員会を中心に、課題の明確化、情報の共有、組織間の連携を促進し、教職員一人ひとりが学校経営参画意識を持つ
- イ ミドルリーダーの育成、経験年数の少ない教員の校内研修等、教員力の向上に努める
- ウ 働き方改革 一斉退庁日の徹底 部活動活動指針の順守、休日の付添いを複数顧問で分担する等、負担緩和を図る。

(2) 広報活動の充実

- ア 国際教養科への再編への対応

令和4年度までに、「学校教育自己診断」の教職員の肯定率「組織が有効に機能」70%台に(H29:59%,H30:64%,R31:69%)「各組織の連携」55%以上に(H29:51%,H30:53%,R1:53%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 すべての生徒の進路希望実現とキャリア形成支援	(1) 学力の向上 ア 授業力向上の取組	(1) ア・授業の目標を明確にし、生徒が考えたり、意見を発表・交換する場面を取り入れる等の工夫をする ・互見授業や公開授業を活発に行い、授業について話し合う機会を増やす	(1) ア・授業アンケート「授業計画」3.35以上を維持(R1:3.38)「知識・技能が身についた」3.2以上を維持(R1:3.26) ・授業力向上の全体研修2回実施	
	イ 1・2年次での基礎学力の定着	イ・1・2年次各2回学力生活実態調査(英数国)を実施し、分析会を実施し、教科担当者で共有し、基礎学力の定着のための働きかけを行う	イ・分析会2回実施と、教科での取組体制の定着	
	ウ 自学自習の習慣の確立	ウ・教科と学年が連携し、自学自習の習慣確立に向けて取組を行う。 基礎学力調査等の結果を英数国の教科担当者で分析し、定着率の低い分野を学習させる等の取組を行う。	ウ・学校教育自己診断(以下自己診断・肯定率)生徒「自学自習の習慣がついた」50%(R1:42%)	
	(2) キャリア形成の段階的支援 ア 効果的な進路指導の実践	(2) ア・三年間の進路指導計画を共通理解のもと、効果的に実践する ・ポートフォリオを活用し、基礎学力調査や模擬試験の振り返りを定着させる	(2) ア・効果的な実践や効果的な振り返り方法の工夫等の研修を行う。1回	
	イ 進路探究の推進	イ・新たな探究のプログラムを円滑に実施し、進路指導部と連携を図り、進路意識の醸成に活かす ・SDGsをハブとし、探究と各教科の授業や各分掌の取組みとつなげる。	イ・新たなプログラムの円滑な実施 生徒発表の機会2回 ・自己診断・肯定率生徒「進路意識の確立」80%前後(R1:77%) ・SDGsの各教科・分掌の取組みを報告する機会を設定し、共有する。1回	
	(3) 社会性の育成と学習環境の整備 ア TPOに応じた行動	(3) ア・遅刻防止の徹底 ・挨拶の励行	(3) ア・年5回以上遅刻者20%台維持(R1:22%) ・挨拶運動実施 2回	
	イ 自他の人権を尊重する態度を養う	イ・様々な人権課題に触れ、正確な知識を身につけ、当事者意識を持って物事を考えさせる	イ・人権について考える機会 各学年3回 高校3年間で、様々な分野をバランスよく学ばせる。	
	ウ 校内美化の推進	ウ・保健委員会の活性化	ウ・美化点検各学期1回 ・クリーンアップキャンペーンの実施	

2 多文化共生を推進する人材の育成	<p>(1)多文化理解教育の一層の充実 ア多文化共生について深く考える</p> <p>(2)英語教育の充実 ア四技能を総合的に伸ばす指導方法の研究</p> <p>イ英語外部検定</p>	<p>(1) ア・多文化共生について体験やフィールドワーク等を通して理解を深める</p> <p>(2) ア・新学習指導要領実施に向けた授業内容の研究 ・国際文化科1期生の英語授業(現学習指導要領)計画の策定</p> <p>イ・GTECの効果的な指導方法の共有とそれによる英語力の向上を図る</p>	<p>(1) ア・国際交流や多文化共生について体験したり、考える機会 5回以上留学生との交流等</p> <p>(2) ア・英語科教員による新たな CanDo リストの作成 ・計画の完成</p> <p>イ・GTEC 4技能 CEFR-J A2.2 以上 25%台 (R1:25.1%) ・英語科内で指導方法の共有</p>	
3 地域との連携や社会との繋がりによる人間力の育成	<p>(1)自主的な活動の活性化 ア良好な人間関係の構築</p> <p>(2)生徒会活動の充実 イ社会との関わりの中で成長</p>	<p>(1) ア・クラスや学年を超えて交流できる機会の設定</p> <p>(2) イ・様々な分野で、学校外での活動の機会を設け、積極的に参加させる</p>	<p>(1) ア・交流の機会 3回 体育の部団交流、探究の発表会等(学年・クラスを超えて)</p> <p>(2) イ・参加生徒数 100名以上 花園進路探究プログラム、ボランティア活動等</p>	
4 学校力の向上	<p>(1)組織力向上 ア学校運営参画意識の向上</p> <p>ウ働き方改革</p> <p>(2)広報活動の充実 ア国際文化科への再編への対応</p>	<p>ア・首席を初めとする運営委員が、課題の共有、建設的な議論の活性化に努め、コミュニケーションを十分にとり、組織力を高める ・PTやWGに多くの教員が関わり、その中で仕事の進め方を学んだり、協働して組織として動く経験の場を多くつくる</p> <p>ウ・一斉退庁日の徹底や部活動活動指針の遵守による時間外勤務時間の縮減</p> <p>ア・国際文化科の特徴や魅力を効果的に広報するための工夫</p>	<p>(1) ア・自己診断・肯定率教職員「組織の連携」50%台 (R31:47%)「組織が有効に機能」60%台 (R1:59%) ・PTやWG等への教職経験 20年前後までの教員の参加 10名以上</p> <p>ウ・繁忙期(4月~6月)の時間外勤務平均時間数を45時間未満にする (R1:46.0)</p> <p>ア・広報用のパンフレット等の刷新 ・広報用パワーポイントやポスター等の刷新</p>	